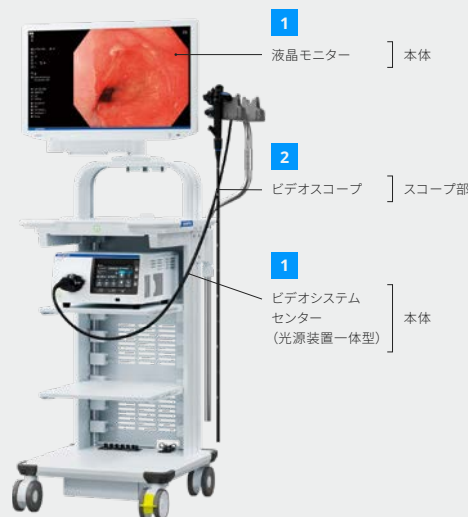


## 1 本体：液晶モニター ビデオシステムセンター

ビデオシステムセンターは、スコープ先端部の撮像素子がとらえた電気信号を映像信号に変換し、液晶モニターに映し出します。ハイビジョンのほか、色彩強調、狭帯域光観察などさまざまな画像処理に対応しています。最新の機種は光源装置一体型となっており、ランプ寿命の長いLEDを搭載しています。色再現性の向上のため、Violet、Blue、Green、Amber、Redの5色のLEDを採用しています。自動調光（明るさを自動的に調整する）機能や水・空気を送るポンプも内蔵しています。



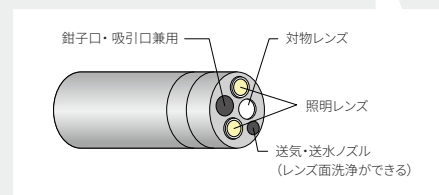
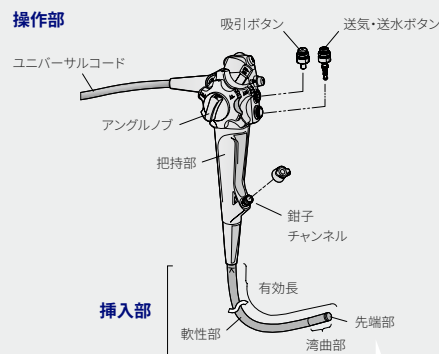
## 2 スコープ部

ビデオスコープは、操作部、挿入部、接続部の3つの部分からなります。

### 操作部

操作部のアングルノブはワイヤで内視鏡先端部とつながっています。アングルノブを回すことにより、スコープ先端の湾曲部が上下、左右に曲がり体内への挿入を容易にするほか、体腔内を360度観察できます。

また、吸引ボタンと送気・送水ボタンが付いています。ボタンを操作することで、空気や水を送り込んだり、吸引します。操作部の根元には、鉗子チャンネルがあり、ここから処置具を出し入れします。



### 挿入部

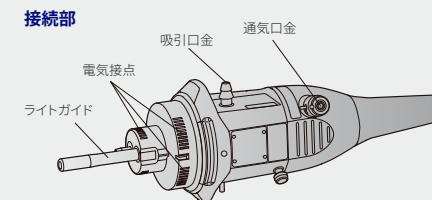
挿入部の先端部は、主に①対物レンズと撮像素子、②光源装置からの光で体内を照らす照明レンズ、③処置具の出し入れと吸引口を兼ねた鉗子口、④水や空気を送り出すノズルの4つから構成されます。

対物レンズは標準仕様が超広角レンズです。病変をより詳細に観察するため、拡大ズーム機能が付いたものもあり、高精細のハイビジョンに対応しています。

照明レンズは、ファイバーバンドル（光ファイバー）で導かれた光源装置の光で体腔内を明るく照らし出します。鉗子口から処置具を出し入れし、組織を採取したり、病変を切り取ったりします。ノズルは、レンズ部分に水をかけ、洗浄するほか、空気を送り込み体腔内を膨らませる機能があります。

### 接続部

接続部は、ユニバーサルコードを通じて、ビデオシステムセンターとつながります。空気や水の供給もここを通じて行います。



### 主な使用シーン（内視鏡検査）

